

Ⅶ 編集後記

今年ももう6月、いよいよ梅雨ですね。5月にはサミットが開かれ、暗雲立ち込める世界経済への協調した対応を各国首脳が真剣に討議し、共同声明が出された。それが果たして世界経済をいい方向に導くことができるか、世界が注目している。

アメリカのオバマ大統領がついに広島を訪問し、何を言うのか、何をするのか、などと日米をはじめ、世界から注目された。まずは無難でした。アジアでは台湾、フィリピンなどで将来4～5年にわたって、国の方向を決めるリーダーを選ぶ選挙が行われ、それぞれ新しい指導者が選出された。それらの指導者が難しい状況に置かれた国の指導者として、どのようなかじ取りをするか、注目したい。今年、アメリカの大統領選も行われる。アメリカのトップは世界のトップでもあるだけに、極端な言動で知られるトランプ氏か、ヒラリー・クリントン氏か、予断を許さないだけに、目が離せない。米国大統領選挙史上、最も不人気な候補同士の争いだとか。

7月には、日本でも参議院選挙が行われる。今度の選挙はそれが憲法改正(?)につながるか否かと言う点でも、極めて重要である。日本人一人一人の責任が将来にわたって問われることになるかもしれない。選挙年齢が引き下げられてから初の選挙だという点でも、注目される。消費税の10%への増税も先送りされ、アベノミクスが行き詰まりを見せるのに、野党がだらしないだけに、国民の責任はますます重大となり、目先の利益にとらわれない投票が求められる。

東京都知事がまたも不祥事を起こした。こうした状況を見るたびに感じるのは、なぜ候補者を選ぶ段階でもっと厳しい選別をしないのか、ということである。都知事は大統領に類似しているという。それならおのこ、数か月をかけてでも、アメリカ大統領選挙の候補者選びに似た方法で、どの候補者が最もふさわしいかをあらゆる角度から検討すべきではないだろうか。都知事になる以前の問題まで取り上げて、いまさら大騒ぎするのにはいつものことながら、うんざりする都民も多いに違いない。

さて、わが研究所の紀要 **e-Magazine 第17号**ができました。今回もアジアやラテン・アメリカの専門家による、力作ぞろいである。特に、新聞やインターネットなどでは取り上げられないテーマや内容を中心に、長年の研究による成果に基づいて執筆された、多くの論考が収録できた。これらの論考を読んでいただくことで、現状の客観的で論理的な理解も歴史の見方も、間違いなく得られるものと確信する。

本紀要の目的は、これまで何度も言及してきたが、客観的かつ論理的な視点に立って、現状分析、アジアや世界の現状への見方、歴史の見方、日本とアジア諸国との関係、変化著しいアフリカ、ラテン・アメリカ諸国の動向、などなど、様々な角度からアジアとその関係諸国の動向やその背景をより深く、より正しく理解していただくことを目的としている。その意味で、今回の紀要も大きな役割を果たすものと確信する。内容が極めて濃いため、1つずつの論考に短いコメントを加えるのは難しいし、それほど

IAM e-Magazine 第17号

2016年6月15日発行

特定非営利活動法人アジア近代化研究所 (IAM)

の意味はないと考える。ぜひ皆さん自身で
ご一読をいただき、できる限り多くの会員
の皆さんから真摯なコメントや厳しい批判

が寄せられることをお願いしたい。しばら
くうっとうしい梅雨が続くが、体調管理に
ご留意を。(朽木)